

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700121		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	天神川ケアセンターそよ風 東ユニット		
所在地	京都市右京区西院西田町61番地		
自己評価作成日	平成27年3月	評価結果市町村受理日	平成27年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2690700121-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公園・保育園・小学校・天神川沿いの桜並木、と環境に恵まれており、居室の窓から眺めたり、お弁当を持って花見に出かけたりと楽しい時間を過ごして頂けるような支援に努めています。町内会の行事参加により地域の方とのふれあひも大切にしております。入居者・家族の思いを大切に、寄り添い思いを傾聴できるかぎり思いに添った支援が出来るよう努めています。そよ風でよかった。と言って頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は法人理念の基、職員の意見を出し合い利用者の傍に寄り添うことや利用者に安心してもらえるようにとの思いを込めた独自の理念を作り、利用者が笑顔でゆったりと穏やかに過ごせるような支援に努めています。町内会に加入し地域の催しへの声掛けも多くあり、花見や敬老会に利用者と共に参加したり、ボランティアによる楽器の演奏や高校生との交流の他、事業所の防災訓練への地域の方の参加や災害時の協力体制作りについても話し合う等、少しずつ地域の方との交流を通して、事業所の理解が深まっています。職員の意見や思いも聞きながら初めての看取り支援を経験し、今後体制作りに向けた勉強会を予定しています。職員体制も整い、馴染みの美容室への付き添いや買い物、外食など希望を聞きながら、個別の外出支援にも力を入れ取り組み始めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念を唱和し共有して実践に努めています	法人理念の基職員間で話し合い利用者に寄り添うことや安心してもらえることを基本にした事業所独自の理念を作りフロアに掲示しています。法人の理念は毎日朝礼で唱和しています。職員には介護の基本としても利用者に寄り添う支援を常に伝え、ケース会議等で利用者に合わせた支援を検討し、日常の支援に活かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事の参加を通じて交流しています	散歩や地域の商店で買い物する時の挨拶や町内会に加入し回覧板から情報を得て、地域の花見や敬老会に利用者と共に参加したり、小学校の催しを見に行く等の交流をしています。ボランティアの来訪で楽器の演奏などの披露があったり、併設のデイサービスに幼稚園児が来訪した時には一緒に参加する等、相互の交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事にデイルームを開放し、入居者も参加しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かせるように努めています	2か月に1回、利用者や町会長、老人会、婦人会、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、活動報告などを行い意見交換をしています。会議を通じて災害時に地域の協力を得られるように依頼し訓練に参加を得たり、地域の情報をもらい行事に取り入れるなど運営に活かしています。家族へは会議の内容を報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ出来る限り協力していけるように努めています	運営推進会議の議事録の提出や運営上必要な報告などで訪問した際に、不明点を確認しています。市の勉強会や研修の案内があれば参加して情報をもらう等、市の職員と連携を取っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エレベーターやテンキーなど一部制限していますが、研修会・ユニット会議などで意識向上に努めています	毎月の会議の中や年間計画の中で、身体拘束に関する研修を実施しています。研修時の資料を基に勉強会を開催し、不参加の職員にも伝達しています。制止に繋がる言葉掛けなど問題があればその都度注意しています。エレベーターはテンキーロックされていますが、体制により開錠できる時間を検討し、外出希望の利用者には寄り添って一緒に外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会・ユニット会議などで、意識付けを実施しています		

天神川ケアセンターそよ風 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学ぶ機会を持っていますが、活用されていません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得をして頂けていると思います		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じて機会を設け要望・意見が反映出来るように努めています	家族の来訪時やアンケート等から意見をもらっています。外出の機会や運動機能の維持などの意見があり、個別の外出の機会を増やす等、意見を運営に反映しています。全家族に毎月出す便りの中で取り組みを報告しています。クリスマス会や大きな行事には家族会も兼ねて参加を呼び掛け、交流や意見交換の場になっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議において意見・提案を聞き反映出来るように努めています	全体会議や各ユニット毎の会議を月1回開催し、意見を聞き、不参加の職員には会議の内容を伝えていきます。意見から利用者の状態に合わせて業務分担を変え、職員の負担軽減に繋げる等、意見を運営に反映しています。また研修や環境などの委員会があり委員の担当としても意見を出しています。年1、2回センター長との個別面談や職員の様子を見て声を掛け意見を聞いたり相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分とは言えないが面談などを定期的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修案内の告知、全体会議後の研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分とは言えないが合同の勉強会や研修会には参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の要望に耳を傾け安心して生活して頂けるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾け、本人も含め不安無く安心してサービスを利用して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の必要に応じたサービスが出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は、一緒に行い支え合えるような関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加のイベントを開催したり、家族が気軽に訪問できる雰囲気づくりを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をえて馴染みの人と会ったり、馴染みの場所に出かけられように努めています。	兄弟や友人等の来訪があり、居室に椅子を用意したり、お茶を出して一緒にゆっくり過ごせるように配慮をしています。利用者の希望を家族に伝え、兄弟等との面談が実現したり、家族の対応で教会のミサへ出掛ける時の日程調整や準備の手伝いを行う等、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、見守り、スタッフも一緒にかかわり、支え合えるよう支援に努めています。		

天神川ケアセンターそよ風 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	十分ではないが出来る限りの支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中で、本人の希望、意向を聞き、把握できるように努めています。	入居時にケアマネジャーと自宅に訪問し利用者や家族から希望や思い、生活歴を聞きアセスメントシートに記入したり、センター方式の一部のシートを用いて家族に情報を記入してもらい把握に繋げています。入居後は支援経過に日々の様子や職員の対応などを詳細に記入し、ユニット会議で利用者の思いや希望について話し合い、意向に添った支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの生活歴・サービス利用情報を得るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録をもとに一人ひとりの現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメント・カンファレンスを行い、現状に応じた介護計画を作成しています。	利用者や家族の意向や往診時に聞いた医師の意見などを反映させて介護計画を立てています。毎月のケース会議で出された職員の意見を基に担当職員がモニタリングを実施し、3か月毎の見直し時にはケアマネジャーがモニタリングと共に評価を行い見直しています。介護計画の実施状況はサービス経過記録表に記録を取り、日々確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を活用し日々の変化に気づき、介護計画の見直しに活用していけるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて検討し取り組んでいます。		

天神川ケアセンターそよ風 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園・学校・スーパーなどを通じて暮らしを楽しむ事が出来るように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療により適切な医療を受けられるように支援しています。	入居前のかかりつけ医を継続できることや協力医についても説明し、現在は全員が協力医に変更しています。利用者は協力医の往診を其々月2回受け、職員の看護師は24時間連絡が取れ、指示を受けることができ、医師とも連携を図っています。専門医等へは家族や職員の対応で受診し、必要な情報や受診結果はその都度家族と共有をしています。必要により歯科や鍼灸等の訪問診療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の対応のもと適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて情報交換や相談が出来るように連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、医療機関で話し合い必要に応じた支援をチームで取り組んでいます。	入居時に看取りについて説明し、利用者が食事を摂ることが出来なくなった際には家族、医師とも相談し、看取りの意向の確認を行い希望を尊重して看取りの体制を整えています。これまでに看取り支援の経験があり、医師や看護職員へは24時間相談することが可能で支援の時は協力医に随時往診に対応してもらっています。今後勉強会等を開催する予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や緊急時対応マニュアルに基づいた対応が出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練の実施、マニュアルによる対応が身につくように努めています。	年2回、其々昼夜想定でいずれも消防署の立ち合いの下、利用者も参加して防災訓練を実施しています。実施の際には近所への声かけや運営推進会議で案内しています。訓練は併設する施設と合同で開催し、出火元からの避難誘導等を行い消防から指導を受けています。今年度は、地域の防災訓練に参加予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分とは言えませんが、会議・研修会などで意識付けるようにし、目上の方・お客様と意識するようになっています。	会議の中で年1回接客マナーの研修を実施しています。丁寧な言葉遣いと名前は苗字で呼ぶことを基本にしています。新人の職員には入職後3か月間の期間、言葉遣いの指導や目上の人への対応であることの意識付けを徹底しています。利用者への対応で不適切なことがあればその都度管理者やリーダーが指導し、利用者は目上の人であると職員に伝え周知に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を傾聴し自己決定出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分とは言えませんが、一人ひとりのペースにあった支援が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に支援するように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いたり、一緒に調理したり、出来る限り一緒に楽しめるように支援しています。	職員が1週間毎に利用者と相談の上、魚や肉など偏らないように季節感を取り入れた献立を決めています。食材は発注した物が届き、足りない物やおやつ等は利用者と共に買いに行っています。利用者の能力に応じ、洗い物や片付けに参加し、職員も同じ物を一緒に食べています。利用者の誕生日には好きな物を献立に取り入れたり、全員や個別の外食にも出かけ、食事に変化を持たせています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合った支援が出来るように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあったケアを支援しています。		

天神川ケアセンターそよ風 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムにあった支援をしています。	利用者毎に排泄の記録を取り、パターンを把握して声掛けや誘導等の支援を行っています。退院後は早期に排泄状況が元の状態に改善するよう支援をしています。ケース会議では本人に合った排泄用品の選択や夜間や日中などに合わせた使用方法を検討するなど、できるだけ失敗を減らし現状維持できるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた食事の工夫や運動などで便秘解消に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった時間帯のなかでも無理なく、楽しく入浴して頂けるように支援しています。	入浴は午前と午後の3時頃までに支援し、大まかな曜日を決め、週に2、3回の実施しています。1人毎に湯を入れ換え、ゆず湯等の季節の風呂を実施しています。入浴拒否が見られる利用者には声掛けを工夫したり、仲の良い人同士で入浴する等工夫をしています。併設施設に機械浴の設備があり、重度の方も安心して入浴可能となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活習慣に応じて、休息したり眠って頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の情報を共有し、支援・管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割・楽しみを支援出来るように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望を傾聴し出来る限り希望にそった支援が出来るように努めています。	気候の良い時には希望者と散歩や買い物に出掛けたり、ドライブを月に1回程実施し、桜や紅葉を見に出掛けています。敷地内のプランターの植物に水をやったり、外出を好まない利用者にも声を掛け気分転換をしてもらっています。人員体制も整い、外出の機会を増やし、地域の行事等へも参加していく予定です。	

天神川ケアセンターそよ風 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り、個別の使用は、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限なく支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感・季節感を感じられるよう工夫しています。	リビングの採光はカーテンで調整し、温湿度計を設置して室温、湿度に注意しています。椅子や机は利用者同士の相性を考慮して座席を決め、心地よく過ごせるよう配慮をしています。季節に合わせた折り紙などの利用者の作品を展示したり、プランターで花を育て利用者が季節を感じられるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごして頂けるように、席やテーブルで工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や置物を置き、家族の意向を取り入れ本人が居心地よく過ごせるように工夫しています。	入居時に自宅へ訪問した際に過ごしている部屋を見せてもらい参考にしています。仏壇やアルバム、家族の写真、人形など大切なものや、鏡台や筆筒、座卓などの使い慣れた物を自由に持ち込んでもらい、利用者が過ごしやすいよう家族が配置しています。居室の温湿度に配慮し、自身で清掃する方もおり、快適な空間を保てるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分とは言えませんが自立した生活が出来るように工夫しています。		